

国語科学習指導案

広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成24年〇月〇日 (〇)
- 2 学 年 〇組 (知的障害特別支援学級)
- 3 場 所 〇組教室
- 4 題材名 「なまえ なーんだ」文部科学省著作教科書 (こくご☆☆)

5 題材設定の理由

- 国語科の学習においては、個別指導の時間を中心として、児童にとって身近な言葉で作った単語カード(絵や写真とその裏にひらがなで名称を書いたもの)を使用し、絵や写真を見てもものの名称を答えたり、文字を読んで名称を答えたりする学習を続けてきた。

読むことについては、発音が不明瞭ではあるが、A児についてはひらがなの静音のほとんど、B児においては半数以上読むことができるようになり、文字への関心が高まってきている。単語としてはある程度認識しており、身近な絵や写真と単語のマッチングはできてきている。しかし、今まであまり読んだことのない単語を見たときには、文字を読むことなく「分からない。」と答えたり、頭文字だけで判断して、知っている単語と結びつけて読んでしまったりすることがある。

その原因としては、ひらがなの一文字一文字としては読むことができているが、単語として読み、及びその意味を理解することや、音節と文字を結びつけることが十分でないことが考えられる。さらには、発音が不明瞭なため、音節と文字がより結びつきにくい傾向があり、自信をもって答えることができにくい現状がある。

- 「なまえ なーんだ」文部科学省著作教科書(こくご☆☆)は、日常生活の中で見たり、聞いたり、食べたり、乗ったり、触ったり、使ったりしている身近な事象や食べ物、動物や自分の体に関心を持ち、そのものの名称を知り、それらの名称を語形として捉えることができるように設定してある。本学級の児童にとっては、この題材を通して、語彙を増やし文字に意識を向けて読むことや身近な絵や写真と単語のマッチングをより確実にしていくことができると考える。
- 指導に当たっては、まずは語彙を増やすために、身近なものの名称を知り、単語と絵や写真をマッチングする学習を行う。その後、単語の中の一文字を抜いたものを提示し、正しい文字は何かを考えさせることで単語の一字一字に注目することができるようにし、音節やそれを書き表す文字の違いに気をつけながら、ものの名称を読むことができるようにしたい。その際、視覚的に分かりやすくしたり子どもの意欲・関心を持続したりすることができるように、デジタル教材や大型テレビを活用する。また、自分自身で正解であることを確認し「できた!」という自信や達成感をもたせることができるような教材を工夫したい。発音については、声の大きさや口の形に気をつけながら自信をもってはっきりとした声で読もうとすることができるように、「合ってるよ。」「大きな声で。」という言葉がけをしたり、児童の目の前で口の形を分かりやすく示したりすることを心がけたい。

6 題材の目標

- 身近なものの名称を知り、単語と絵や写真をマッチングすることができる。
- 音節や文字の形の違いに気をつけながら、ものの名称を読むことができる。
- 声の大きさや口の形に気をつけながら読むことができる。

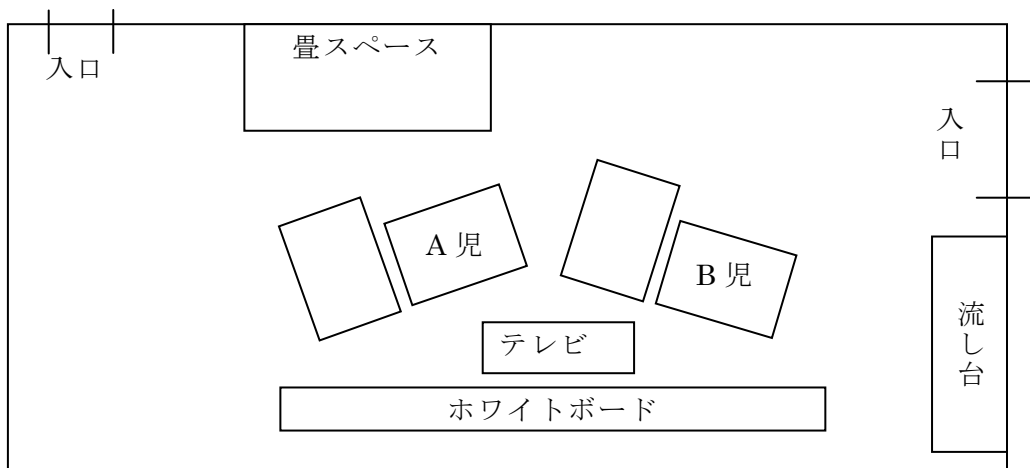
7 指導計画

- 1次 身近なものの名称を読もう・・・10時間
- 2次 どの文字がぁっているかな・・・(本時5/10時間)
- 3次 間違っている文字を見つけよう・・・10時間

8 本時の目標

児童	実 態	目 標
A 児 (○年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの清音をほぼ読むことができる。 ・単語を読む場合は1文字ずつ拾い読みすることで、正しく読むことができる。 ・単語の頭文字を見ただけで知っている単語と結びつけ、誤って読んでしまうことがある。 ・形の似た字の判別を誤ってしまうことがある。 ・最初からはっきりと大きな声で読むことは難しいが、教師の「合ってるよ。」「大きな声で。」という言葉がけがあると、はっきりと大きな声で読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの名称を覚え、単語と絵や写真をマッチングすることができる。 ・体の部位の名称を知り、形の似た文字「あ」、「お」、「め」、「の」、「ぬ」を区別し、正しい文字を選んで単語を完成させることができる。 ・友だちに聞こえる大きな声ではっきりと読むことができる。
B 児 (○年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの清音を半分程度読むことができる。 ・覚えているものの名称については、単語と絵や写真をマッチングさせることが大体できる。 ・ひらがなの音節を聞き取ってその文字を取ることが大体できるが、似た音節（子音が同じ等）の判別を誤ってしまうことがある。 ・ひらがなの一文字一文字は読むことができるが、単語として読みや、その意味を理解することがまだ十分でない。 ・発音が不明瞭であるため、音節と文字が結びにくい傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの名称を覚え、単語と絵や写真をマッチングすることができる。 ・体の部位の名称を知り、似た音節の文字を区別し、正しい文字の入った単語を完成させることができる。 ・教師の口の形を見ながら、ま行の音をはっきりと発音して読むことができる。

9 教室配置図



10 本時の学習計画

学 習 活 動	・ 支 援 ☆ 評 価			準 備 物
	全 体	A 児	B 児	
1 始めのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日直に始めのあいさつをするよう促す。 ・何時間目かが分かるよう、表示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何時間目かが分からなくなった時には、表示を見るよう言葉かけをする。(日直の場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人前でも落ち着いてあいさつができるよう言葉かけをする。(日直の場合) 	
2 学習内容を知る。 ○めあてを伝える。 ○今日の学習内容を伝える。 ①ことばカード取り ②体の名前	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①ただしいもじを みつけよう。 ②はっきりとしたこえで よもう。 </div>			
3 ことばカード取りをする。 A: テレビに映し出される文字を読んで、その絵(写真)のカードを取る。 B: 出てきた単語と同じ単語のシールを得点表に貼る。 A: カードを自分でめくって、正解を確認し、友だちに合っていたことを伝える。 B: 得点表にシールを貼る。 (交代して行う。)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の順序が分かるようにホワイトボードに提示をする。 ・文字全体をしっかりと読むことを伝える。 ・カードの裏に正解を書いておき、自分で確認できるようにする。 ・意欲を高めるため、各自の得点表を用意する。 ・友だちにシールを貼ってもらい、「おめでとう。」と言ってもらうことを楽しみにすることで、より意欲的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない時には、一文字ずつ確認することで何という単語か読めるようにする。 ・画面と同じ単語を選択肢の中から見つけることができるよう、「同じ言葉を見つけてごらん。」等の言葉かけをする。 ☆言葉と絵をマッチングさせることで、大きな声ではっきりと読むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことができない文字がある場合は、自分から友だちに頼むことができるように「読めない時にはどうしますか。」等の言葉かけをする。 ・教師の口の形をよく見て発音するよう、言葉かけをする。 ☆ま行の音を教師の口の形を見て、正しく発音することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばカード ・テレビ ・パソコン ・得点表 ・選択肢用シール ・正解用シール
4 体の名前を学習する。 ○前時で学習した体の部位の名称を確認する。 ①「て」 ②「め」 ③「あたま」 ④「おなか」 ⑤「あし」	<ul style="list-style-type: none"> ・交互に当てながら、体の部位の名称を確認する。 ・音節や形が似た文字を提示することで、文字の違いにより意識を向けられるようにする。 ・カードの裏に正解を書いておき、選ん 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からなくなった時には、単語を見せ自信をもって読むことができるようにする。 ・「あ」、「お」、「め」、「の」、「ぬ」のどの部分に注目したらよいか具体的に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からなくなった時には、頭文字を伝えるなど、ヒントを出す。 ・教師の口の形をよく見て発音するよう言葉かけをすることで、音節と文字がより 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の部位を示したイラスト ・テレビ ・体の部位カード ・選択肢用カード

<p>○単語の中のいくつかの文字を抜いたものを見て、その中に入る文字を選ぶ。</p> <p>A児 ・形の似た「あ」、「お」、「め」、「の」、「ぬ」の中から正しい文字を選ぶ。</p> <p>B児 ・音節の似た文字を混ぜた5種類の単語の中から正しい単語を選ぶ。</p>	<p>だあとカードを裏返して自分で合っているか確認できるようにする。</p> <p>・間違っている場合、正解を見ながら正しい文字を選ぶよう伝える。</p>	<p>・B児に聞こえるような大きくはっきりした声で読むよう言葉かけをする。</p> <p>☆「あ」「お」「め」「の」「ぬ」を区別し、正しい文字を選んで単語を完成させることができたか。</p>	<p>結びつきやすいようにする。</p> <p>☆似た音節の文字を区別し、正しい文字の入った単語を完成させることができたか。</p>	
<p>○二人で一緒に、読む練習をする。</p>	<p>・二人でお互いに見合わせ、答えが同じかどうか確認する。</p>	<p>☆間違いに気が付き、正しく直すことができたか。</p> <p>☆体の部位の名称を、絵を見て答えることができたか。</p>	<p>☆間違いに気が付き、正しく直すことができたか。</p> <p>☆体の部位の名称を、絵を見て答えることができたか。</p>	
<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>・ワークシートに学習した単語を書く。</p> <p>・ファイルにとじる。</p>	<p>・絵と見本をもとに、体の部位の名称をワークシートに書くよう伝える。</p>	<p>・書くことが難しいと思われる文字は、下書きをしておく。</p> <p>・パンチの位置を合わせることは、教師と一緒に行う。</p>	<p>・書くことが難しいと思われる文字は、下書きをしておく。</p>	<p>・学習プリント</p>
<p>6 終わりのあいさつをする。</p>	<p>・日直に終わりのあいさつをするよう促す。</p>	<p>・何時間目かが分からなくなった時には、表示を見るよう言葉かけをする。(日直の場合)</p>	<p>・人前でも落ち着いてあいさつができるよう言葉かけをする。(日直の場合)</p>	